

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立新田小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	85人	算数	85人	理科	85人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	79人	算数	79人	理科	79人
------	----	-----	----	-----	----	-----

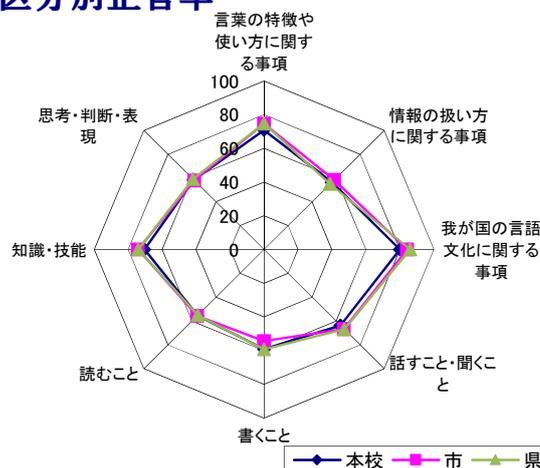
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立新田小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	70.9	74.7	74.8
	情報の扱いに関する事項	56.5	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	80.0	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	63.8	66.7	66.9
	書くこと	59.1	54.3	59.3
	読むこと	55.4	55.6	55.2
観点	知識・技能	70.4	74.1	74.0
	思考・判断・表現	58.5	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

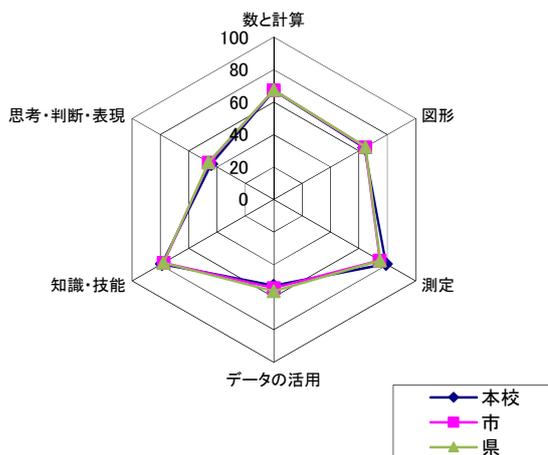
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	市の平均正答率より、下回っている。 ○指示語を選ぶ問題では、正答率が9割を超えている。 ○令和4年度の本校の平均正答率を9.5ポイント上回っている。 ●ローマ字表記を正しく読み取る問題では、正答率が4割である。 ●漢字の読み・書きとともに県の平均を下回っている。	・漢字の読み書きについては、文を書くときに既習漢字を使って書くように指導するとともに、今後も朝の学習やドリル、ミニテスト等で定着を図る。 ・1人1台端末を利用し、タイピングの練習をさせるなど、1年生からローマ字への親しみがもてるようにする。
情報の扱いに関する事項	県の平均正答率より、1.5ポイント上回っている。 ●国語辞典の使い方についての問題で県の平均正答率を上回ったものの、正答率は6割以下である。	・今後も語句を辞書で調べる活動を継続し、国語辞典をより速く正確に引けるようにする。 ・多くの意味をもつ言葉を使った問題を用意し、朝の学習や授業の始まりなどに取り組みせ、適切な意味はどれかを確認することで、語彙力の向上を図る。
我が国の言語文化に関する事項	市の平均正答率より、下回っている。 ●漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて平均正答率は8割であるが、市の平均よりも5.7ポイント下回っている。	・新出漢字を学習する際に、部首についても確認する。 ・教科書やドリルなどを用いて、同じ「へん」や「つくり」がついている漢字を集めるなど、楽しく覚えられる活動を取り入れる。
話すこと・聞くこと	市の平均正答率より、下回っている。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題は、市の平均正答率よりやや高い。 ●自分の考えを、理由を挙げながらまとめる問題では、4.9ポイント、市の平均正答率より下回っている。	・話し合い活動を行う際に、司会者がどんな工夫をしながら話しているのかを意識して聞くように促したり、お互いの考えの共通点や相違点を整理しながら自分の考えやその理由をまとめさせたりする。 ・朝の会や帰りの会、授業中になどに、話し合いの場を設定する。基本的な話型を常時掲示し、司会を中心に話題を確認しながら話し合いを進められるようにする。
書くこと	市の平均正答率を上回っている。 ○自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く問題については県の平均正答率とほぼ同等である。 ●指定された長さや、2段落構成で文章を書く問題では県の平均正答率よりやや下回っている。	・教科書等の文章や模範となる書き方の例を参考にさせ、段落の構成を意識させながら形式的な文章表現の仕方の習熟を図る。 ・日記指導を行ったり、他教科の学習でも書く活動を取り入れたりすることで、いろいろな状況に応じた書き方ができるように指導をする。
読むこと	市の平均正答率とほぼ同等である。 ○文章の要約から適する語を書き抜く問題については、市の平均正答率より5.1ポイント上回っている。 ●叙述を基に段落の内容を捉える問題では7.1ポイント市の平均正答率より下回っている。	・問題の意図に沿った解答ができるように、様々な問題に触れる機会を増やす。 ・物語文を読むときには、登場人物の心情の変化や、要点などに注意しながら読み進める習慣をつけさせる。 ・説明文を読むときには、段落ごとにキーワードを見つけ、小見出しをつけて内容をまとめる活動を取り入れる。

宇都宮市立新田小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.2	67.3	67.4
	図形	63.8	64.5	64.7
	測定	79.1	74.7	74.9
	データの活用	52.9	54.4	56.4
観点	知識・技能	78.9	77.6	77.8
	思考・判断・表現	44.1	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

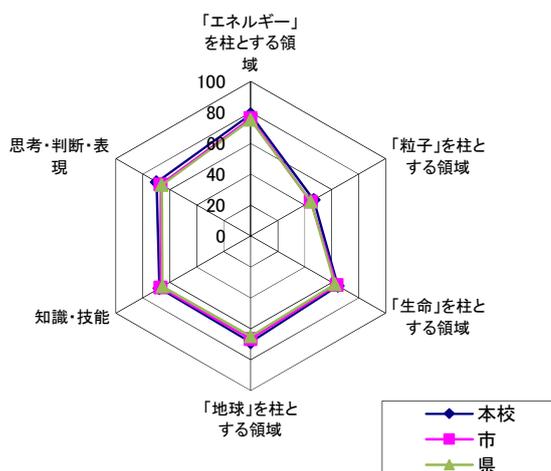
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○「小数のしくみや表し方」の正答率が98.8%で、しっかりと理解できていることが分かる。</p> <p>○「数量の関係について□を使って正しく表された図を選ぶ」の正答率は、市の平均よりも6.9ポイント上回った。「□を使って問題の場面を図に表す」についても市の平均を3.9ポイント上回っており、図に表して問題を解くことの理解が定着している。</p> <p>●言葉で説明する問題では、正答率が市の平均よりも3.5～4.4ポイント下回っている。基礎的理解はできているが、考えを表現する技能に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数の概念の理解や計算の技能の維持・向上のため、朝の学習や授業の始め・終わりに練習問題に繰り返し取り組む時間を設定する。 図を利用して考える問題への理解ができている児童が多いことから、視覚的に問題を捉えることで思考を深めることができると考えられる。今後も視覚に訴える教材を活用したり、図を描かせたりする活動を取り入れるなどの指導を継続して行う。 説明するために必要な言葉や語型を提示し、文にする練習をすることにより、説明することに慣れるようにする。
図形	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○「円の半径と直径」については、市の平均を2.2ポイント上回っている。</p> <p>○「円の中心とコンパスの使い方について、正しいものを選ぶ」では、市の平均を3.4ポイント上回っている。</p> <p>●「円の性質を考え、コンパスを使って正三角形が作図できることを説明する」では、市の平均を9.2ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 円の作図の技能を定着させるために、繰り返し練習させる。1人1台端末の動画なども活用し、個に応じた学習を進められるようにする。 円の性質や正三角形の性質を図と言語を結び付けて考えられるよう資料を提示し、キーワードを見つけさせるなど、考えを言語化できるような指導方法を工夫する。また、異なる図形が重なっている模様に数多く触れさせ、それらの図形の共通の性質について考えさせる機会を設け、説明することに慣れるようにする。
測定	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○「地図から道のりを読み取り、その和を求める」ところは、理解できている児童が多い。</p> <p>○「はかりの目盛りを読み取り、重さを答える」の正答率は、市の平均を12.3ポイント上回っている。</p> <p>●「身近なものの重さの単位について正しくないものを選ぶ」では、市の平均を2.9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を利用して考える活動を取り入れてきた成果が出ていると考えられるので、今後も継続し、知識の定着、活用力の向上を図る。 正しくないものを選ぶという問いを勘違いして答えている可能性もあり、問題文を正しく把握できるよう、普段から問題文の内容を意識させながら解かせる。 重さの単位について理解できるように、身近な物の重さを調べたり、1人1台端末を使って友達と調べた結果を共有したりする活動を取り入れる。
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○「棒グラフの読み取り」では9割の児童が正確に理解している。</p> <p>●「二つの棒グラフで1目盛の数が異なることに注意しながら読み取り、正しいものを選ぶ」では、市の平均を2.9ポイント下回っている。グラフを読み取るという基礎的な知識、技能は身に付いているが、複数のグラフや文章を比較することに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読み取るときに、大切なところに線を引いたり、グラフと照らし合わせた結果を書き込んだりするなど、順を追って考える習慣を付けられるよう、繰り返し指導する。

宇都宮市立新田小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	78.6	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	46.7	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	64.5	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	68.7	66.6	64.9
観点	知識・技能	67.7	66.8	65.4
	思考・判断・表現	69.8	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○ゴムを伸ばす長さや車の動く距離の関係から、ゴムを伸ばす適切な長さを推測する問題では、市よりも9.9ポイント高い。</p> <p>●電気を通す性質のあるものの総称を答える問題では、市の平均より7.6ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 理科で使われる用語の定着を確実にするために、単元末にキーワードとして確認する。 各単元の導入段階で既習事項との関連付けを行うようにし、基礎基本の定着につなげる。
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○形を変えても粘土の重さが変わらないことを理解しているか問う問題では、市よりも3.4ポイント高い。</p> <p>●姿勢と体重の変化の理由を説明する問題では、正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめとして、日常生活にみられる自然事象を見直す機会を設け、科学が日常生活の中にも見られることに気付かせる。 自分の考えを表現するときには、科学的な根拠をもって説明できるように繰り返し指導する。
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均よりやや高い。</p> <p>○昆虫の体のつくりや成長の様子についての問題では、市の平均を大きく上回っている。</p> <p>●虫眼鏡の正しい使い方を問う問題では、市の平均よりも12.1ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実験の方法や観察器具の使い方を動画や画像などで示し、視覚的に理解できるようにする。 各単元の導入段階で既習事項との関連付けを行うようにし、基礎基本の定着につなげる。
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○影の動く様子を推測する問題では、市の平均よりも10.8ポイント高い。</p> <p>●温度計の正しい使い方を問う問題では、市の平均よりも2.2ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実験の方法や観察器具の使い方を動画や画像などで示し、視覚的に理解できるようにする。 各単元の導入段階で既習事項との関連付けを行うようにし、基礎基本の定着につなげる。

宇都宮市立新田小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●家庭学習において、「家で、自分で計画を立てて勉強している」という設問の肯定的回答率は55.8%で、県や市を10ポイント以上下回っている。「家で、学校の宿題をしている」という設問の肯定的回答率は91.9%で、県や市をやや下回った。「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という設問の肯定的回答率は43.1%で、県や市を15ポイント以上下回っている。家庭学習に関しては、児童・家庭への啓発をしていく必要がある。土日を含めた課題の出し方や内容、量を工夫し、家庭学習・自主学習への支援・指導を計画的・継続的に行い、児童が学習に対する達成感や充実感を味わえるようにしたい。

○「学校の宿題は、自分のためになっている」という設問の肯定的回答率は93%、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つ」という設問の肯定的回答率は93.1%であり、県や市と同程度で、学びに向かう姿勢や学習の大切さについては理解していると考えられる。

○各教科において、「将来のために大切だと思いますか」という設問の肯定的回答率は、どの教科も85%以上となり、多くの児童が学習に関して将来のために大切だと理解していると考えられる。

○「むずかしい問題に出会うと、よりやる気が出る」という設問の肯定的回答率は52.4%で、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」という設問の肯定的回答率は80.2%であり、県や市をやや下回った。しかし、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」という設問の肯定的回答率は80.2%で、県や市をやや上回った。今後、さらに、一人一人に目を向け、特にマイナスな感情をもちやすい児童や、学習に根気よく取り組むことが難しい児童に対して、課題を達成した達成感や学ぶことの喜びが経験できるように、学習のめあて、学習の進め方、自分の学びについて振り返ること等、きめ細やかな支援や指導を工夫していく。

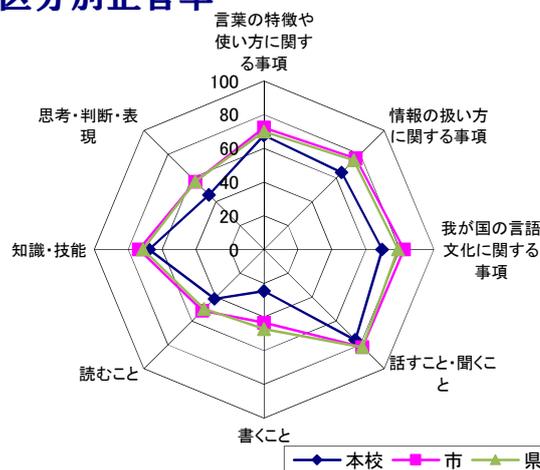
○「学校の決まりを守っている」という設問の肯定的回答率は94.2%で、「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」という設問の肯定的回答率は89.5%と高く、県や市と同程度となり、前向きな姿勢で学校生活を送っていることが分かる。

●「自分のよさを人のために生かしたいと思う」という設問の肯定的回答率は84.9%で県や市をやや下回った。「自分もっている能力を十分に発揮したい」という設問の肯定的回答率は88.3%であり、県や市と同程度となった。学級経営、係、当番の方法等を見直し、自分のよさを発揮できる場や自己有用感を実感させる機会を意識的に設けるなど、児童が主体的に活動できるよう指導・支援をしていきたい。

宇都宮市立新田小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	67.8	72.3	70.0
	情報の扱いに関する事項	64.6	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	69.6	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	76.0	81.9	82.0
	書くこと	24.7	43.5	47.2
	読むこと	41.3	51.4	49.8
観点	知識・技能	67.7	73.6	71.3
	思考・判断・表現	45.8	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

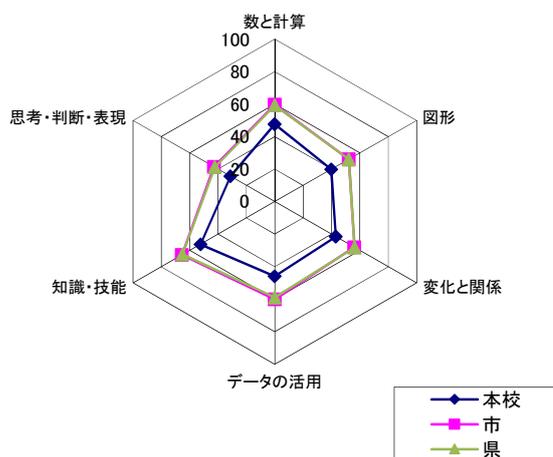
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	市の平均正答率を下回っている。 ○漢字を読む問題、様子を表す語句を選ぶ問題では、市や県の平均正答率と同程度である。 ●漢字を書く問題では、市の平均正答率よりも1.0～17.4ポイント下回っている。	・漢字の練習や確認テストを継続して実施し、習熟を図る。 ・分からない漢字を辞典や1人1台端末を活用して調べさせることで、語彙を増やす。
情報の扱いに関する事項	市の平均正答率を下回っている。 ●漢字辞典の使い方を理解し、使う問題では、市の平均正答率よりも11.8ポイント下回っている。	・漢字辞典の使い方を復習し、日常的に使用できるようにする。 ・新出漢字の学習の中で、総画や部首について触れるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	市の平均正答率を下回っている。 ●ことわざの意味を理解し、自分の表現に用いる問題では、市の平均正答率よりも12.8ポイント下回っている。	・ことわざや慣用句について、教師が意図的に使用し、聞いて馴染むようにする。 ・ことわざを使用した短作文や正しい使い方の選択問題に取り組ませ、知識の定着を図る。
話すこと・聞くこと	市の平均正答率を下回っている。 ●意見の共通点に着目して、考えをまとめることは、市の平均正答率よりも9.9ポイント下回っている。 ●自分の考えを、理由を挙げながら話すことは、市の平均正答率よりも7.3ポイント下回っている。	・話し手の伝えたいことを考えながら聞くことは、継続して指導する。 ・メモの取り方などを工夫したり、共通点や相違点に注目して聞いたりするなど、より詳しく聞き取るための方法を指導し、国語以外の学習でも活用できるようにする。 ・自分の考えを、理由を挙げながら話す機会を多く設定する。
書くこと	市の平均正答率を大きく下回っている。 ●指定された長さで文章を書くことは、市の平均正答率よりも20.3ポイント下回っている。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことは、市の平均正答率よりも23ポイント下回っている。 ●内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことは、市の平均正答率よりも17.1ポイント下回っている。 ●無回答の児童が4割を超えている。	・必要なことをまとめて書く力を高めるために、行数や段落などの条件を付けて文章を書く活動を取り入れる。 ・書くことに慣れるために、類似課題を繰り返す。 ・文章を書くときに、型を示したりすることで、抵抗なく取り組めるように丁寧に指導していく。
読むこと	市、県の平均正答率を下回っている。 ○登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることは、市の平均正答率よりも3.1ポイント上回っている。 ●叙述を基に文章の内容を捉えることは、市の平均正答率よりも24.2ポイント下回っている。	・これまで行ってきた読書指導や新聞記事の要約などの課題に継続して取り組ませることで、様々な文章に触れる機会を増やす。 ・キーワードになる語や文に線を引くなど、言葉を意識して読むよう指導する。説明文では、文の構成や段落ごとの役割を考えながら読むよう指導する。

宇都宮市立新田小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	47.7	59.7	59.2
	図形	39.7	52.1	52.1
	変化と関係	43.0	56.1	56.3
	データの活用	45.9	60.1	58.9
観点	知識・技能	52.4	65.5	65.1
	思考・判断・表現	31.3	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

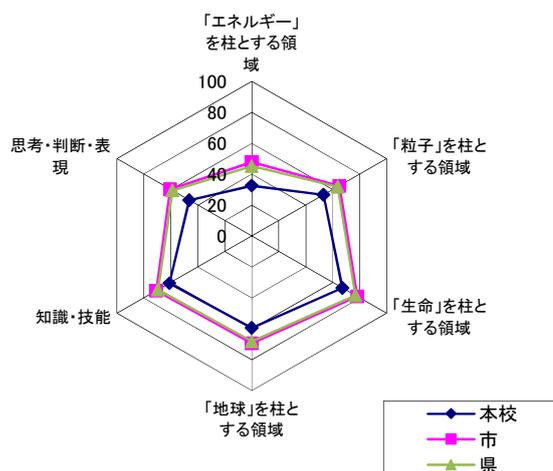
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	市、県の平均正答率を下回っている。 ○「小数を集めた数」の設問では、校内正答率が87.3%であった。 ●「小数第一位×整数」の設問では、市の平均正答率よりも23.8ポイント下回っている。 ●「数直線上の目もりが示す分数を読み取り、仮分数で表す」設問では、市の平均正答率よりも22.3ポイント下回っている。	・基礎的な計算方法の理解を定着するために、授業で小数や分数の計算などの問題に繰り返し丁寧に取り組ませたり、家庭学習において復習できる場を設定したりしていく。AIドリルの活用も積極的に図っていく。 ・分数の性質について確認し、朝の学習などで繰り返し行うことで、理解を深め定着を図る。
図形	市、県の平均正答率を下回っている。 ○「身近なものの面積と単位」の設問では、市の平均正答率よりも2.3ポイント上回っている。 ●「ひし形の作図」の問題では、市の平均正答率よりも23.2ポイント下回っている。 ●「180度より大きい角の大きさ」の設問では、市の平均正答率よりも19.3ポイント下回っている。	・ひし形などの図形の作図を復習する場を多く取り入れ、繰り返し行うことで定着を図る。 ・三角定規を多く活用したり、三角形の性質を確認したりするなど、角に関する基礎的な知識の理解を深め定着を図る。
変化と関係	市、県の平均正答率を下回っている。 ●「2つの数量関係の説明」は、市の平均正答率よりも約20ポイント下回っている。 ●「伴って変わる2つの数量関係の読み取り」では、市の平均正答率よりも約14ポイント下回っている。	・表やグラフから分かることを読み取らせる。1人1台端末を利用して、グループでの話し合いや共同編集などで友達の意見を見られるようにし、多面的に考えられるようにする。 ・図を使った問題に取り組み、問題に慣れるようにする。 ・無回答を減らすために、基本問題に取り組んだり、説明を穴埋めで書かせたりと記述式の問題に繰り返し取り組
データの活用	市、県の平均正答率を下回っている。 ●「2つの折れ線グラフ」の、必要なことをグラフから読み取る問題では、市の平均正答率よりも34.7ポイント下回っている。 ●「二次元表の読み方」では、市の平均正答率よりも22ポイント下回っている。	・学級や学校でのアンケート結果などをグラフや表に表し、読み取った内容を説明したり活用したりする活動を通して、自分の生活に生かすことができるものであることを捉えさせる。 ・二次元表の見方や仕組みについて、丁寧に指導するとともに、実際に二次元表を作る活動を通して知識の定着を図る。

宇都宮市立新田小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	32.5	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	53.2	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	67.1	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	59.5	69.5	68.1
観点	知識・技能	61.1	70.8	69.5
	思考・判断・表現	46.3	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>●乾電池のつなぎ方の名称を問う問題では、市の平均より17.4ポイント低い。</p> <p>●電流が大きくなる回路を理解し、豆電球が明るく光る回路を推測する問題では、市の平均より16.6ポイント低い。</p>	<p>・理科で使われる用語の定着を確実にするために、単元末にキーワードとして確認する。</p> <p>・実験で得られた結果を基に、共通点や差異点に気付くように指導する。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>○金属をあたためたり冷やしたりしたときの体積の変化についての問題では、市の平均とほぼ同程度であった。</p> <p>●水を凍らせたときの体積の変化についての問題では、市の平均より19.4ポイント低い。</p>	<p>・学習のまとめとして、日常生活にみられる自然事象を見直す機会を設け、科学が日常生活の中にも見られることに気付かせる。</p> <p>・課題、予想、実験方法、結果、考察をノートやワークシートに自分の言葉で記述させるようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>○春や夏のころの気温や動物のようすについての問題では、正答率が82.3%と高い。</p> <p>●関節について理解しているかどうかを問う問題では、市の平均を18.6ポイント下回っている。</p>	<p>・理科で使われる用語の定着を確実にするために、単元末にキーワードとして確認する。</p> <p>・各単元の導入段階で既習事項との関連付けを行うようにし、基礎基本の定着につなげる。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>○時間の変化による星の並び方や見える位置を問う問題では、正答率が84.8%と高い。</p> <p>●冷やしたペットボトルについて水滴が空気中の水蒸気に変化したものであることを理解しているか問う問題では、市の平均を19.4ポイント低い。</p>	<p>・学習のまとめとして、日常生活にみられる自然事象を見直す機会を設け、科学が日常生活の中にも見られることに気付かせる。</p> <p>・自分の考えを表現するときには、科学的な根拠をもって説明できるように指導する。</p>

宇都宮市立新田小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●家庭学習についての設問について、「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答率は43.1%で、県や市を17ポイント以上下回っている。「家で、学校の宿題をしている」での肯定的回答率は97.5%で県や市をやや上回っているが、授業で解くことができた問題でも、もう一度解いてみることや、テストで間違った問題をやり直しすることなど、具体的な復習の仕方を助言していく。

○「勉強していて、不思議だなあ、なぜだろうと感ずることがある」という設問は、87.4%の児童が肯定的回答をしていて、県や市をやや上回っている。また、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」も83.6%で県を上回っており、児童が学習の中で学習内容に対する課題意識や興味・関心をもちながら、探求心をもって意欲的に取り組んでいることが分かる。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の設問での肯定回答率は、県や市を15ポイント下回っている。「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」の肯定回答も県や市を10ポイント下回っている。「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」で肯定的回答をしている児童は83.5%で県や市とほぼ同じ結果であり、まずは自分で頑張ってみようとする姿勢が見られるが、課題解決の方法が分からなかったときに、友達や周囲の大人に聞いて参考にすることと合わせ、本(辞書)やインターネットを活用して解決にむずびつけることで、本やインターネットを活用する機会を増やすようにする。また、1人1台端末を使った課題作成や個に応じたAIドリルの活用を引き続き進めていく。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の設問では、肯定的回答率が76%で、県や市を2.8ポイント下回った。授業の中で話し合いの機会を効果的に設定するとともに、友達の意見を聞いて自分とは異なる新しい考え方に気付いたり、よいと感じた考えを自分の意見に取り入れて自分の意見をさらに発展させたりできるようにし、自分の考えを深め広げる力の向上を図っていく。

○「授業を集中して受けている」という設問では、肯定的回答率が93.7%で、県や市をやや上回っている。学習用具を整え、与えられた課題に意欲的に取り組んだり、教師の話や友達の意見をよく聞いたりするなど、授業に対する学習の姿勢が身に付いていると考えられる。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の設問では、肯定的回答率が67.1%で、県や市を3ポイント以上上回っており、「学校での役わりや係の仕事にせきになをもって取り組んでいる」での肯定的回答率は9割を越えている。学級の中で自分の係に責任をもって取り組む中で、集団生活の中で自分の役割を果たすことの大切さを理解したり、友達とよい部分を認め合いながら助け合って活動したりすることができていると考えられる。

宇都宮市立新田小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的な学び	課題や発問を工夫し、児童が見通しをもって活動できるようにしている。	「授業の中で目標がしめされている」、「授業の最後に学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定的回答は、4、5年ともに昨年度よりも上回っている。
表現の育成	基礎学力を身に付けるための指導を工夫したり、考えや思いを表現する活動を設定したりしている。	「友達に自分の意見や考えを発表することは得意」の肯定的回答は4、5年ともに5割に満たない。また、「考えを文章に書くことはむずかしい」に肯定的回答をした児童は4、5年ともに6割以上いる。
学び合いの充実	1人1台端末を活用したり、ペアやグループ活動を取り入れたりするなど、互いの考えを共有する活動を設定し、話し合いを活性化できるようにしている。	「授業で友達と話し合う活動を取り入れている」の質問では、5年の肯定的回答が昨年度4年だった時よりも約6ポイント上回っている。「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」に肯定的回答をした児童は、4、5年ともに7割を超えている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・知識・技能を「活用」する問題や、根拠を示して説明したり、考えを書いたりする「記述」の問題に課題が見られる。	・語彙力の向上 ・文章や問題文の意図を適切に読み取る読解力の育成と作文技能の向上	・学習した言葉を定着させるために、授業の始まりや終わりに確認したり、指定した言葉を使った短文をしたりする。 ・「まとめ」や「振り返り」を書く際に、本時で習った言葉を必ず入れるなどの条件を提示し、簡潔な短文でまとめるなど、書くことに慣れるようにする。